

目次	1 頁 執行部報告	2 頁 専門委員会報告
	3 頁 各支部お知らせ	7 頁 事務局報告

## 執行部報告

### 速報：9割を超える賛成で「新組織」の骨組みきまる

去る8月10日開催された日本ヨット界統合準備委員会(以後、「新組織」準備委員会)で、「新組織」の骨組みの懸案部分がJYAとの間で合意された。

懸案部分は「新組織」における理事・評議員数のJYA系とNORC系の比率をどう決めるか、にあったが、最終的に理事・評議員ともJYA系:NORC系を2:1の数の構成し、基本事項の改訂は2/3議決にすることで決着した。

これをうけ、8月22日、NORC代議員会が開かれた。代議員会(定数144名、出席者117名)は他の議案もふくめ、2時間の審議をへて、「新組織」準備委員会での合意を記名投票の結果、出席者の9割を超える賛成(平田克己、都築勝利、坂谷定生、竹内聡一など

107名)、反対5(津野守邦など5名)、態度保留5(安高知二など5名)で機関承認をした。

また、これに先立ち理事会(定数30名、出席者26名)が開かれ、やはり2時間の審議をへて、同議案を記名投票の結果、出席者の9割を超える賛成(周東英脚など24名)、反対0名、態度保留2(川端治夫、渡辺行彦)で機関承認をした。<敬称略・順不同。代議員会・理事会とも議事録・全氏名など、詳細は次号に掲載>

さらに、同日、JYA側も「新組織」準備委員会での合意を唯一の議題として理事会が開かれ、機関承認をした。これにより、官庁との折衝をのこすものの、「寄付行為」草案づくりが加速され、また、付属の組織運営規則も早

急に作業が進むこととなった。

#### 会員の負担もグッと軽減

なお、「新組織」の会費は5,500円になる見込み。したがって、来年の年会費は、2000年3月までの15ヶ月分(新組織は会計年度が4/1～3/31)で9,000円(艇所有会員はプラス艇登録更新料年10,000円)<支部会費は別途。支部独自で決定できる>となり、会員の負担もグッと軽減される見通しとなった。また、JYAがすでに現年会費4,500円で全会員に傷害保険をつけていることから、この5,500円の会費の中からやりくりして、「新組織」全会員に傷害保険をつけることを検討中。

## 日本ヨット界統合準備委員会議事録(第15回)

日時：平成10年7月6日(月)  
 18:30～20:30  
 場所：岸記念体育館401会議室  
 出席者：(順不同・敬称略)  
 JYA側：米澤一、貝道和昭、栗田栄一郎、有馬敬三  
 NORC側：尾島裕太郎、高田尚之

(1) 会議は、JYA側貝道委員の司会によって進行された。

(2) JYA側から、6月10日(水)文部省競技スポーツ課を訪れ、これまでの経緯について報告するとともに、理事・評議員の定数増大について次のようにお願いしたとの説明があった。

内容は、統合後の5年間は暫定期間とすることを考えている。この間理事はできれば35名、最小限30名に、また評議員は150名を認めていただきたいとお願いした。

このことに関して文部省側から、暫定期間の設定は必要であるがその期間は理事任期2年の2回と考えるかどうか、理事枠については暫定期間経過後に23名程度の理事数に

戻すという条件で要望の線に添って文部省の官房と調整したいとの考え方が示された。

なお、評議員数は特に定数枠の取り決めがないので、要望数をもとに検討したいとのことであった。

(3) NORC側から、統合準備を円滑に行うためには文部省や運輸省に行った報告内容のシナリオづくりが必要である。

解散総会の決議は、従来は出席者の2/3ということで考えていたが、弁護士と相談した結果、実は総会員数の2/3以上の賛成がないと解散できないということが判ったので厳しい対応に迫られている。

今日現在総会員数4,144人、このうち住所不明者等を含む会費未納者が1,300人いる。

現在この未納者に対する会員継続の意思確認を行う等、総会への対応に努力を続けている。

会員の中には今もなお対等合併か吸収合併かについての根強い意見もあることから理事・評議員は1/3をほしい、それでないと解散決議の場において崩壊の恐れもある、との発

言があった。JYA側委員はこれを確認した。

(4) 以上の説明に続き、前回取り決めた行政対応、会員・会費検討、寄付行為検討、統合事務手続きの4部門に関する小委員会の進め方について検討がなされ、次のように合意した。

ア.NORCは、解散総会のための会議資料を10月6日頃発送したい。従って、小委員会においては先ず、9月までに決定しなければならない項目を抽出し、その項目に基づいた検討を進めていく。

そのため、7月13日～18日の間で日程調整し、それぞれの小委員会を開催する。イ.8月10日前後に統合準備委員会の開催を準備する。この際、小委員会での検討内容について審議する。

ウ.9月5日頃まで(国体開催前)に両協会とも理事会等を開催して審議する。

以上

平成10年7月6日

社団法人 日本外洋帆走協会  
 専務理事 尾島裕太郎  
 財団法人 日本ヨット協会  
 理事長 貝道 和昭

## 日本ヨット界統合準備委員会議事録 (16回)

日時 平成10年8月10日  
18:45～20:45  
場所 NORC 会議室  
出席者 (順不同、敬称略)  
NORC 側 古川保夫、尾島裕太郎、加藤正義、  
高田尚之、鈴木保夫、児玉萬平  
JYA 側 米澤一、貝道和昭、穂積八洲雄、  
岩田直幸、栗田栄一郎、有馬敬三、  
今泉武伊知

(1) 会議は NORC 尾島委員の司会により進行された。

(2) NORC 側から、NORC は本年12月解散総会を予定しているが、寄付行為草案においてこれをクリアできる制度上の環境が必要で、このためには統合時における理事・評議員比率を JYA 対 NORC を 2:1 とし、また基本規則の改正事項は 2/3 議決を要することとするについて、JYA 側の了解を得たいと述べた。

(3) JYA 側は、統合時における理事・評議員比率は、さる4月28日基本合意書の調印前の JYA 理事会及び評議員会にてそれぞれすでに機関決定したものであること、また、(2)の事項は統合後一定の年数

間の暫定措置である旨の表明があった。

(4) NORC 側から、重ねて理事・評議員比率については、統合時まで待って決定することは内部対応が困難なので、NORC 会員数は平成10年5月24日(1998年度第2回総会)の会員数とし、JYA 側は平成9年度末(平成10年3月31日)とすること、また、会員数比については、NORC は準会員及び会友艇オーナー会員は含めず、JYA は年会費額の低い高校生会員及びジュニア会員については修正値を採用して比率を試算すると、JYA 対 NORC は 2.2:1 となるので、当面 2:1 の比率にしたい旨発言した。

(5) JYA 側は、統合への大局的見地から NORC の要望は理解するものの、NORC 側の(4)の提案は、来る8月22日開催予定の JYA 理事会において了解を取りつけてから回答する旨の発言があった。

(6) NORC 側提案(2)の理事・評議員比率は、「4年以内に解消する」ことが確認された。注)  
また、特例として規定する 2/3 議決事項についても「4年以内に改訂する」ことが

確認された。注)

さらに、寄付行為草案第16条の「加盟団体」の内容についても「4年以内に改訂する」ことが確認された。注)

(7) 新組織の名称について、日本セーリング連盟とするか日本セーリング協会とするかについては、引き続き検討することになった。

(8) NORC 側が提案した会員数及び会員数比の算出表を別表に添付する。(別表略)

注) 理事・評議員とも JYA 系 2:NORC 系 1 の比率で構成し、基本事項は 2/3 議決にすることが決まっているので、解消・改定の審議にあたり、NORC 系の発言力は担保されている。

平成10年8月10日

社団法人 日本外洋帆走協会  
専務理事 尾島裕太郎  
財団法人 日本ヨット協会  
理事長 貝道 和昭

## 専門委員会報告

## 安全委員会

## 第3回本部安全委員会議事録

出席者:野口隆司理事、山本高靖理事、福田義一(東京湾)、羽柴宏次(三浦)、浪川宏(本部)  
前回議事録確認(併せて議題1[NORCの薦める安全備品について]を討議)

## 1. 運輸省合報告

無線局:議事録中の内容と異なり、免許者が居ない場合、マイクをはずしておけば良いはずである。

海上保安庁は常時ワッチをしているのだから、緊急時には我々は免許のある無しにかかわらず通信する権利があっても良いのではないか。

USA では今年から全面的にフリーオープンとなっている。

検定品:未検定品を余分に積むこと自体が違法であるとの、保安庁担当官の見解は、責任ある回答なのか。正式に確認する必要がある。自分達の安全のためにも自分に適した備品(たとえば救命胴衣)をもって行きたい。

## 2. ORC-SR について

救命胴衣の検定品の中には ORC に規定される 35ポンドの浮力を持たないものがあり、このままでは矛盾が発生する。

議事録中にあるケミカルライトは1本200円であった。  
ファーストエイドキット:サンプルキットを作り、その容積や適合する防水ケースを探す。法的に医師の処方が必要な薬剤に対してはどのような方法で携行させることができるか今後の課題である。抗生剤、トランキライザー、モルヒネ等。

安全備品のそろえかた:安全備品を日常購入し易

い地方とそうでない地方の問題がある。

NORC でカテゴリ 4 の備品パッケージを用意して貸し出しを有償で行う。目安として年間3回レースに出る程度なら借りた方が得で、5回出るなら買った方が得と言う利用料金の設定を行う案もある。(管理と責任の問題がある)

## 2. 特別規定検査員資格制度について

特別規定検査は各艇のオーナーが自主的に引き受け署名をするべきであり、それに必要となる勉強会を NORC として主催すべきである。諸外国のレースではマークシート方式の詳細な自己申告安全検査書き込み用紙の配布を受けることが多い。安全検査員にあまり権威を持たせるのも良くないのでは無い。

各艇が自己申告する方が内容は真実に近い可能性が高いが、逆に日本社会におけるサインの持つ意味と真実性には問題のある点も多い。

事故対策としてきちんと全ての項目、全ての艇に対して検査員が検査を行っておくべきである。(裁判、マスコミ対応にも必要)

長いレースは徹底的に検査を行い、短いレースは自己申告とする案もある。

全部自己申告にするか、あるいは検査するならばカテゴリ 4 まで徹底的に実施するべきである。どちらに実効性があるかの問題である。

自己申告をしてもらい、レース委員会が委員会ごとの判断で確認検査を行う案。

この場合はレースに出る船だけが対象となる。セール番号をとるだけの船は安全検査を受けてもら

うべきである。

船同志で互いに検査しあうという案もある。

自己申告としレースに出る船はレース委員会が管理し、レースに出ない船は「沿海で船検」をとればカテゴリ 4 の特別規定検査パスとみなす案もある。(限定沿海は不可とする) 限定沿海+カテゴリ 3 でも、相模湾ではレースに出られるケースとなるが、この事に関して行政側の見解も確認しておく必要がある。

NORC-SR にレース委員会に特別規定検査のチェックを求める条項を入れるべきであるかの検討も必要である。(レース委員会に対する啓蒙活動の必要性)

外洋帆走規則の扱いをどう考えるべきか。同規則を適用していないレースも近時多い事実もある。海上衝突予防法だけでもレースは行える。NORC とは何かの案を考えることも必要である。

安全検査員へ支払う費用を大幅に増額して実状に見合うものにすべきでは無い。そうでないと指摘事項の再確認は実施するのが難しく、結局検査そのものを安易なものにしてしまう恐れがある。

グアムレースが実施に向けて着々と準備がされはじめているが、カテゴリ 1 で行われる同レースの実施にはこの検査の問題が重要である。スケジュール的に整合しなくてはならないのでは無い。

関連して同レースの準備状況、出艇予定者のリスト等の質問が出された。

羽柴委員からの準備状況に関する状況報告が関連報告された。

特別規定検査の方法をどのようにするか、今回と前回で自己申告方式、検査員による検査方式を中心にその中間の案も出てきたが、この議事録を各委員、各支部に送って意見を出してもらふこととする。その上で再度安全委員会にて検討したい。早急に結論を出す必要がある。

NORC-SR, NORC 設備規定, ORC 規定、船検規定の整合に委員会として努力をする必要がある。たとえば ORC 規定の予備電源・予備航海灯の NORC としての解釈をどうするか。

### 3. その他

通信委員会への要望：レースにおける無線と電話の関係の考えをどのように考えて行くべきか。安全の思想として電話が普及しても船舶無線は維持して行くべきか否か。無線免許をせめて届出制程度に緩和してもらう方向で運動すべきではないか。通信委員会との話し合いが必要であり、NORC 全体としても話し合いを行って行くべきである。

#### [ 次回検討課題 ]

以下の項目に関して理事各位、委員各位および各支部の意見を聴取する必要がある。

1. 特別規定検査員制度の見直し
  - a 検査員を認定制にして知識、解釈、方法の均一化をはかり、地域差・個人差を無くす。
  - b オーナー主体で自己申告性にし、自艇の安全を守るために、必要時に困らないように、レース委員会のインスペクションに失格しないように自分でチェックする。
2. 無線通信手段の今後のあり方に関して NORC の意見をまとめるために関係各位・委員会と協議する。
3. 船検と ORC、NORC 両特別規定、NORC 設備規定、NORC 外洋レース規則の間の整合をはかる。
4. 救命備品の選定。
5. 搭載救急備品(ファーストエイドキット)の選定。

## 第4回本部安全委員会議事録

出席者：野口隆司理事、山本高靖理事、福田義一(東京湾)羽柴宏次(三浦)大河原(湘南)浪川宏(本部)

### 前回議事録確認

#### 議題1. 特別規定検査員制度について

1. 全ての艇に対して検査員が検査すべきであるが検査員に対する支払いが2,000円というのは不自然である。5,000円ぐらいを基準として艇の長さ按比例させるべきである。本部2,000円、検査員8,000円とするべきではないか。

特別規定検査費用のうち本部の取り分が大きすぎないか。本部にそんなに費用はかからないはずである。(本部5,000、支部3,000、検査員2,000)

これがないと本部会計が成り立たない。しかし本部財源を事業収入から会費収入にだんだんと切り替えるべき時期が来ていると思う。

安全に関する本部予算をこの委員会で討議すべきである。講習員の養成、派遣の予算を確保する必要がある。

検査員への支払方法についても現在の方法は問題がある。検査員の威厳というものに配慮すべきではないか。検査費用は委員会で各艇から徴収して年末に余剰金が出たら検査員に分配するというのはどうか。

検査員に費用を支払ってその船が後のインスペクションに引っかかったときは誰の責任か。

もしオーナーが検査後に備品等をおろしてしまった場合は勿論オーナーの責任であるが、結局検査

全体がオーナーの責任ということになるのではないか。自己申告の方が本来有るべき姿であるという所以である。

検査員はアドバイザーとして重要であり、そのため検査員の養成が大切である。

艇長による自己申告+レース委員会によるインスペクションの制度という案もあるが、レース委員会には目下そんな権威もない。レース委員会への啓蒙が必要である。

自己申告のほうがオーナー責任と言う事が明確になる。レース委員会のインスペクションで規定を満足していない事が判明した場合はペナルティを課す。

各レース委員会にはレース時の艇インスペクションを一定量義務づけたい。今のレース委員会にそれを強要するのは無理がある。

インスペクションのスペースが実際問題としてないのではないか。

世の中の時代感覚という点では、例えば建築法規の世界なども今まで行政が行ってきた建築手続きを一部民間に開放して、行政と民間が対等に法の執行を行ってゆこうとしている。

今まで官の許認可が優先されていたわが国の社会の中にも自己規制、自主判断が存在意義を持ちはじめようとしている。

こうした社会的背景からヨットの安全装備に関しても自己申告、署名が効力を発揮するようになってもよいのでは無いか、その方が信義を前提としたより実効性の高い申告や、オーナー責任が明確になるのでは無いか。

薬事審議会の世界でも、政府の許認可だけでなく、企業の自己申告が制度として実現しつつある。政府は禁止停止の権限を行使するが、民間の判断に一步道を譲った形である。

NORC 登録艇は全艇特別規定検査を受けてもらうべきである。

全艇とすると、レースに出ない船にはメリットがない。検査員には NORC の事務処理に不満があり、検査に行ってもマークシート方式にして自己申告してもらっている人もあるようである。

NORC の検査の形であると、オーナーの責任が半分になり、NORC に検査者としての責任が発生する。

検査制度であると、備品をその時だけ貸し借りして、検査終了後返品してしまっているケースがあり、かえって実効性が少ない。

カテゴリ-4では規定備品をNORCでバックしておき、貸し出したり、結果として使用したケースでは買い取ってもらうという方法もある。

年に1回しかレースに出ない人、3回出てる人で経済性を考慮して判断できるようにしてあげるのも良い。6人バック、8人バック等を作る。

特別規定も計測に関してもレース委員会を啓蒙して権威を持たせる。

文章上の制度ではその権威はあるはずである。

JYAでは主催者講習会があり、それに出席するとレース委員会の保険がつく。このようにして全国均一なレース運営を誘導している。

NORCでは主催者教育など出ていない。

JYAではルールに関しても、ジャッジに関しても講習会を実施していて、結果としてレース委員会が絶対的権威を持っている。

NORCではレース委員会に帆走委員会が口を出す。もつとレース委員会に権威を持たせるべきである。

帆走委員会の本来の役目は運営マニュアル等をつくったり、困っているレース委員会があれば助っ人をするという立場が良い。本来レースのツールとしての計測とか安全を統括する立場であるのではないか。

安全委員会は安全啓蒙が大きな目的であり、舳ろの適性サイズやマストが折れた場合の対応方法の研究などを行い会員に公表すべきである。(後記 他の委員会との絡みあり)

本部は現場を規制してはいけない。お助けマンであるべきである。

検査員制度を運用しながら2年くらいを試行期間としたらどうか。

その間に、主催者講習会を行い、レース委員に出席を義務付けたい。

クラブ主催のレースが多い昨今、それは難しいのではないか。

安全を啓蒙する情報の提供が先である。

自己申告と検査員制をレースの種類によって使い分けたいどうか。

かざられた人間だけでこれを決めると以前の運営の二の舞になる。

各支部の意見を聞くべきである。

今回委員会の結論はもう1回結論を先送りし、各委員が各支部や関係者の意見を聞いて再度、次回持ち寄りとする事とした。従って今回は各意見を併記するにとどめることとする。

#### 議題2. ファーストエイドキット

福田委員が実際にスーパーマーケットで購入できる品物でキットを作り、市販のビデオテープ入れのプラスチックケースに収めて持参した。

その内容一覧は別に作成する。医師としての福田委員の見解としてこれだけそろえてあればまず十分であり、購入費用は2万円くらいである。

NORCとしてセットを用意することも可能である。

このほかにライフジャケット装着ライト(8時間点灯義務)や信号用鏡を羽柴委員が持ちよった。

#### [ 次回検討課題 ]

以下の項目に関して理事各位、委員各位および各支部の意見を聴取する必要がある。

1. 特別規定検査員制度の見直し。検査員制度を拡充して行くか、オーナー主体で自己申告性にし、自艇の安全を守るために、必要時に困らないように、レース委員会のインスペクションに失格しないように自分でチェックするようにするか。
2. 無線通信手段の今後のあり方に関して NORC の意見をまとめるために関係各位・委員会と協議する。
3. 船検と ORC、NORC 両特別規定、NORC 設備規定、NORC 外洋レース規則の間の整合をはかる。
4. 救命備品の選定。
5. 搭載救急備品(ファーストエイドキット)の選定。

## 帆走委員会・国際部会

## KENWOOD CUP 1998 報告

個別艇 <BIGAPPLE III> (NZL) **優勝**1D48(ワンデザイン 48)クラスでニッポンチャレンジの<チーム G-Shock ニッポンチャレンジ> **優勝**

7カ国 30艇が参戦した「ケンウッドカップ 1998 (2年に1度、ハワイで開催の外洋ヨットレース)」が、8月14日をもって全日程を終了した。

個別艇優勝は <BIGAPPLE III> (NZL)、チーム優勝は、ニュージーランドに輝いた。日本のナショナルチーム (アオバエクスプレス、カラス、マリオエクスプレス) は、善戦したが奮わなかった。

また、今回 2000年のアメリカスカップにチャレンジする「ニッポンチャレンジ」が、ケンウッドカップ Bクラス (1D48・ワンデザイン 48) に<チーム G-Shock ニッポンチャレンジ>で参戦。

ピーター・ギルモアと日本人クルーで、見事に優勝を手にした。2000年のア杯挑戦と同様のメンバーで構成した今回のチャレンジでの優勝は、明るい材料となった。

## INDIVIDUAL

総合順位	Yacht	class	Race 1	Race 2	Race 3	Race 4	Race 5	Race 6	Race 7	Race 8	Race 9	Race 10	Total
1	Big Apple III	Racer	12	14	15	15	42	14	0	10	15	48	185
2	Quest	Racer	14	11	12	11	45	8	0	9	13	44	167
3	G'Net	Racer	12	10	9	7	39	9	0	14	3	60	163
4	Ragamuffin	Racer	11	15	11	13	30	13	0	6	5	32	136
5	Blue Chip	Racer	6	7	10	8	36	7	0	11	11	40	136
6	Beau Geste	Racer	9	13	14	14	33	12	0	4	4	28	131
7	ABN Amro Challenge	Racer	8	8	8	9	27	10	0	7	10	36	123
8	Santa Red	Racer	5	4	5	5	18	4	0	15	9	56	121
9	Flash Gordon 3	Racer	10	12	13	12	21	15	0	2	6	24	115
10	Karasu	Racer	13	2	1	1	3	6	0	8	7	52	93
11	Aoba Express	Racer	7	9	7	10	24	11	0	3	12	4	87
12	Zamboni	Racer	4	6	4	6	12	5	0	12	8	20	77
13	Mario Express	Racer	3	5	6	4	15	3	0	5	14	16	71
14	Desperado	Racer	2	3	2	2	6	2	0	13	1	4	35
15	Yume Hyotan	Racer	1	2	3	3	9	1	0	1	2	12	34

## TEAM POINT

	Team	Race 1	Race 2	Race 3	Race 4	Race 5	Race 6	Race 7	Race 8	Race 9	Race 10	Total
KENWOOD CUP												
1	NZL	30	33	33	29	105	29	0	37	32	164	492
2	AUS	33	33	30	33	102	31	0	22	26	104	414
3	USA RD	22	29	30	31	63	30	0	18	18	60	301
4	USA WH	11	13	15	13	51	12	0	27	13	84	239
5	JPN	21	12	12	14	39	18	0	16	31	68	231
YACHT CLUB												
1	RNZYS	15	19	20	16	57	17	0	24	18	92	278
2	CYCA	17	19	19	20	60	18	0	13	12	48	226
3	NORC	11	7	6	9	18	10	0	8	15	40	124

## '98 ジャパンカップ中止に

本年度 10月25日～11月8日に開催予定されていた JAPANCUP OFFSHORE SERIES (全日本外洋ヨット選手権 1998、主催：NORC 東海支部) が 9月1日 正式に中止を決定した。

本年初めから参加艇を募っていたが、申込締切 (8月31日) を過ぎた時点で参加申込艇は 5艇。実行委員会側もエントリー数増大を図っていたが、NORC 東海支部、川端治夫支部長ならびに '98 ジャパンカップ実行委員会、都築勝利委員長は中止を判断した。

OFFSHORE 編集委員会としては、残念な結果になった原因を関係各位にお話いただき、特集記事の掲載を考えております。

## 湘南支部だより

## 湘南支部拡大代議員会開催通知

湘南支部長 稲葉 文則

日時 1998年9月25日(金) 19時～

場所 豊岡福祉会館 (支部設立総会を開いた所)

議題 支部活動状況、代議員選挙、統合問題他

代議員以外の湘南支部会員の方も参集をお願い致します。

詳細問い合わせは湘南支部に Fax または e-mail にて

FAX : 0468-53-7250、メール : ohno@norc.com

# 各支部報告

## 東海支部だより 鳥羽パールレース成績表 1998.7.18 ~ 20

写真提供/岩瀬喜貞



### IMS クラス総合 参加 21 艇

セール No.	艇名	艇種	総合順位
3592	LAHAINA VI	N/M 35	1
5366	FLAWLESS	MUMM 36	2
5503	TAKE I	COOKSON 12M	3
3000	SUMMER BOY	SYDNEY 46	4
5400	PROPAGANDA	J/V 9.6m	5
5266	SEXY YOU	MUMM 36	6
2677	GREAT PEOPLE	FARR IMS 31	7
5552	ELDORADO	MUMM 30	8
4848	LA MER	JV 9.6 CR	9
4722	DREAMPIC	FARR 44 IMS	10
5402	ESMERALDA	ILC40	11
5149	OCEAN	FRERS 45	12
4700	CARRERA L	TAYLOR 43	13
4774	ESPRIT	JV 9.6 CR	14
5011	GUST	IMS 1030	15
5015	CHOVE CHUVA	IMS 10.3	16
2228	MAKI SPRIT	X-482	17
4283	MEG	NSX36	18
3333	TABATHA	IMS 950	19
5515	WISE ONE	JV 9.6 CR	20

### CR 総合 参加 20 艇

セール No.	艇名	艇種	総合順位
1088	INDEPENDENCE	YOK 30R	1
5055	NARUMI	TSUBOI 950IMS	2
4838	LIBERTY VI	X 412	3
3600	VIND 7	TAK 42	4
1638	SAMURAI 6	GBS 414P	5
2762	KAITO	SWING 34	6
4621	ARIES	EDV 30	7
4955	GARYU 3	YAM 31S	8
4400	IDEAL	SWING 31	9
3768	FRENCH KISS	X 402	10
5111	BARONESS	FST 45F5	11
5418	Selfish & capricious3	VEN-30	12
1311	TACHYON	J 34C	13
5368	Graces	YAM-31S	14
2410	CORSAIR 4	FST FC 12	15
1879	LETISHIA III	DUF 39	16
2640	SUNBEAM III	ELAN 331	17
4010	ZAWAWA	Contest35S	18
3949	SUN RISE II	YAM 26 II S	19

## 南九州支部だより 火山島レース成績表 1998.7.18 ~ 22

写真提供/〈第一花丸〉福田祐一郎



総合順位	艇名	第1レース	第2レース	第3レース	得点合計
1	海王	54.38	33.00	68.00	155.38
2	GUFO exp.	49.50	32.00	62.00	143.50
3	グランドアヤ	48.00	19.00	70.00	137.00
4	スーパー海坊主	52.50	27.00	56.00	135.50
5	HORNET III	36.00	35.00	64.00	135.00
6	第一花丸	43.50	30.00	60.00	133.50
7	LUNA Prominence	31.50	20.00	72.50	124.00
8	GANESH	40.50	29.00	52.00	121.50
9	WIND MAX	42.00	34.00	44.00	120.00
10	アルゴ	46.50	18.00	48.00	112.50
11	マップレ	27.00	25.00	54.00	106.00
12	フライング	28.50	9.00	58.00	95.50
13	Bengal II	15.00	12.00	66.00	93.00
14	神瀬	51.00	36.25	0.00	87.25
15	HOT-UU	21.00	16.00	46.00	83.00
16	オレント	25.50	17.00	36.00	78.50
17	カーニバル	45.00	31.00	0.00	76.00
18	鳳	7.50	15.00	42.00	64.50
19	KONA WIND	39.00	21.00	0.00	60.00
20	狂四郎	34.50	23.00	2.00	59.50

## 東京湾支部だより TOKYO'S CUP 成績表 1998.7.31 ~ 8.2

写真提供/舵社



### IMS クラス 参加 21 艇

セール No.	艇名	艇種	総合順位
5118	CENTURY FAST III	N/M34	1
5402	ESMERALDA	ILC40	2
3757	KAZEKOZO	FARR 31	3
5670	FIRST	YAMAHA 33S	4
5577	KOUSYOU	MUIR 40	5
5645	SOUMI	YAMAHA 33S	6
5275	GERONIMO	FARR 1020 X	7
4737	TURTLE V	ELLIOTT 12	8
4790	CALIFORNIA DREAMER	N/M 50	9
4404	ADONIS	YAMAHA 33S	10
5203	TRACER	T34 IMS	11
4218	NAPOLEON	TAKAI 34 IMS	12
4014	ALPHA	J-33	13
3518	HAGUMI	MUMM 30	14
4091	HEART OF NIPPON	FARR MRX	15
3335	ORIHIME	FRE-41	16
5149	OCEAN	FRERS 45	17
4826	GREAT BLUE	MUMM 30	18
4280	SARA	YAMAHA 9.5M IM	19
4307	CRISTALLA II	BALTIC 35	20

### CR クラス 参加 18 艇

セール No.	艇名	艇種	総合順位
4507	TORNADO III	SWING 31	1
4400	IDEAL	SWING 31	2
3749	STARBOARD Jr	YAM 31S	3
5537	RAIA	SLOT 31	4
3387	BASIC	YOK 28	5
2422	AOBA	FARR 40	6
5540	BOYZ	YAM 31S	7
3360	BIG SMILE	SUN FAST 36	8
4613	PICARO	SWAN 44	9
1702	PUSSY CATS VI	SAWAJI 34	10
4968	SUPER ESCARGO	YAM 31S	11
3252	AROFIE	SWEDE 38	12
5483	CITIUS	YAM 34EX	13
4252	CRESCENT	YAM 31S	14
4600	YUKIKAZE VI	FST 45F5(RK)	15
4311	LITTLE STAR	YOK 31N	16
334	JUNE BRIDE IV	DUF 39	17
2570	MANBOW	SWING 31	18

## 関東 4 支部だより

### 関東相模湾サーキットシリーズ (KSC) 1998 年度中間成績表

#### IMS-A クラス

セール NO.	艇名	KSC1 戦		KSC2 戦		KSC3 戦		総合点
		エントリー 4	順位 得点	エントリー 1	順位 得点	エントリー 2	順位 得点	
4111	CORVATSCH III	1	25.0	10	22.5	2	23.0	70.5
3335	ORIHIME					1	25.0	25.0
4500	KARASU	2	23.0					23.0
4272	PROPAGANDA II	3	22.0					22.0
5733	SENPOU	DNF	5.0					5.0

#### CR クラス

セール NO.	艇名	KSC1 戦		KSC2 戦		KSC3 戦		総合点
		エントリー 8	順位 得点	エントリー 5	順位 得点	エントリー 8	順位 得点	
3802	E 2	2	23.0	2	34.5	3	22.0	79.5
2422	AOBA			1	37.5	2	23.0	60.5
4323	TERESUKO III	4	21.0	DNF	7.5	6	19.0	47.5
1088	INDEPENDENCE V	3	22.0	DNC	4.5	5	20.0	46.5
5014	NIRAI KANAI	8	17.0			7	18.0	35.0

#### IMS-B クラス

セール NO.	艇名	KSC1 戦		KSC2 戦		KSC3 戦		総合点
		エントリー 12	順位 得点	エントリー 11	順位 得点	エントリー 15	順位 得点	
2677	GREAT PEOPLE	2	23.0	3	33.0	4	21.0	77.0
5670	FIRST	3	22.0	9	24.0	7	18.0	64.0
4014	ALPHA	6	19.0	6	28.5	10	15.0	62.5
5400	PROPAGANDA			4	31.5	2	23.0	54.5
3426	DANCE OF MAGIC	11	14.0	7	27.0	12	13.0	54.0

#### 各レースごとの得点

1位 25点	DNS DNF RET DSQ 5点	・第1戦,第3戦,第5戦,の初局レースの内の2レースのポイント合計
2位 23点	DNC	3点 ・第2戦,第6戦,の2レースの内1レースポイント
3位 22点	PMS (タイムペナルティ)	・第4戦,第7戦,の2レースの内1レースポイント
10位 15点	15位~10点	以上4レースの合計ポイントで年間総合をきめる。
KSC 1.3.5戦は×1.0 KSC 2.6戦は×1.5 KSC 4戦は×2.5 KSC 7戦は×2.0とする。 ( )内のポイントは計算外		

## 第21回関東外洋ヨット選手権シリーズ 1998 兼第1回関東4支部対抗シリーズ インフォメーション

### ご案内

初秋のメインイベントが間近になりました。今年は祭日と土曜日が重なって、シリーズの期間が3週間に渡ります。そこで今年では下記のようにふたつの新機軸を取り入れました。すでにショートオフショア (KSC #5 初島R) とロングオフショア (KSC #6 神子元島R) には、KSC としての独立した表彰がありますので、それに見合う形で (仮称) オータム・インショアシリーズ・チャンピオン (インショア4レースの総合成績) を新設、表彰します。これによって参加艇は得意の分野に力を集中すれば、その分野の栄誉が得られます。また、運営サイドの効率と責任の所在を明確にするために、今回は、ショートオフショア (KSC #5 初島R)、インショア、ロングオフショア (KSC #6 神子元島R)、以上の3種のレース運営を、個別のフリートあるいはクラブが担当することにしました。ほんのわずか、煩雑になるところがあるかも知れませんが、大勢は例年と変わりません。下記をよくお読み頂き、新しい試みにご賛同ください。そして、ぜひご参加ください。

### 実施要項概要

**主催** 関東外洋ヨット選手権シリーズ 1998 実行委員会  
**共催** 社団法人日本外洋帆走協会三崎支部  
**運営** NORC 三崎支部油壺フリート、KSC #5 初島レース担当  
 油壺ベイヨットクラブ (ABYC)、インショア担当  
 NORC 三崎支部油壺急急フリート、KSC #6 神子元島レース担当

**レース日程**  
 第1R KSC #5 初島レース 10月3日(土) スタート予定 10:00  
 第2R インショア 10月10日(土) スタート予定 10:00  
 第3R インショア 同上 スタート予定午後  
 第4R インショア 10月11日(日) スタート予定 10:00  
 第5R インショア 同上 スタート予定午後  
 第6R KSC #6 神子元島レース 10月17日(土) スタート予定 10:00

**レース海域** KSC #5と#6は、KSCの実施要項および帆走指示書に準ずるインショアは佐島沖マーク上下周回コース

**参加資格** KSC #5と#6は、KSCの実施要項および帆走指示書に準ずるインショアに限り、IMSグループは、1998の有効な計測証書を所有し、

ORC 特別規定 1998-99 カテゴリー 4 以上、NORC 設備規定 B 以上の検査に合格した、LOA7.5m 以上の艇。アコモデション・ノンファイルの艇には IMS レギュレーション 1998 の 1 章と 2 章のみを適用する CR グループは、1998Ver.7.00 以降の有効な計測証書を所有し、ORC 特別規定 1998-99 カテゴリー 4 以上、NORC 設備規定 B 以上の検査に合格した、LOA7.5m 以上の艇

**エントリーフィー** 関東選手権 (KSC #5と#6、およびインショア4レース) の場合は、IMS クラス、GPH599.9sec 以下 ￥100,000  
 他の IMS クラスおよび CR クラス ￥70,000  
 (エントリーフィーには、表彰式の参加費、LMS、GPH599.9ec 以下 3 人分、他の IMS クラスおよび CR クラスの艇は 2 人分を含む)  
**KSC #5と#6への個別エントリー**は、KSCの実施要項および帆走指示書に準ずる  
**乗員登録料** 関東選手権に限り NORC 会員は無料。非会員は ￥4,000 (艇長会議時に納入)。KSC #5と#6の乗員登録料は KSCの実施要項および帆走指示書に準ずる

**申込締切日** 9月25日(金) 1700 出艇申告受付締切日 9月29日(火) 1700  
**艇長会議** 日時 10月1日(木) 1900~2000  
 場所 国立教育会館 501 会議室 千代田区霞が関 3-2-3  
 TEL 03-35807151  
 虎ノ門交差点文部省西隣  
 地下鉄銀座線虎ノ門駅 5 番出口徒歩 1 分  
 地下鉄丸の内線日比谷線千代田線 13 番出口徒歩 7 分

**問い合わせ先** レース本部設置までは、ABYC 東京事務所分室まで FAX  
 FAX 045-662-6029

**泊地** 油壺特別泊地の利用が可。詳細は上記問い合わせ先まで  
**FAX サービス** NORC 関東 FAX サービス 03-3452-8377 のボックスナンバー 0210 で、実施要項、参加申込書、出艇申告書、乗員登録表などが取り出せる  
 以上

## 第8回 ジャパン・グアム ヨットレース実施要項抜粋

1.<主催> 社団法人日本外洋帆走協会 (NORC)  
 内海支部  
 関西ヨットクラブ (KYC)  
 マリアナスヨットクラブ (MYC)  
 <共催> 新西宮ヨットハーバー株式会社  
 <運営> 第8回 ジャパン・グアム ヨットレース実行委員会  
 <協力> 日本イジウム  
 笹川スポーツ財団 (予定)  
 グアム政府観光局 (予定)  
 コンチネンタル航空 (予定)

2.<日程>  
 1) スタート 1998年12月26日(土)  
 2) コース 新西宮ヨットハーバー沖-グアム島アブラハーバー  
 3) 距離 約1440海里  
 4) レイトスタート  
 レース委員会が正当と認めた理由により、スタートに間に合わなかった艇は、正規のスタート時から24時間以内にスタートすれば、出走艇とみなされる。その場合その艇の所要時間は正規のスタート時から計算される。  
 5) オープンレース  
 第8回ジャパン・グアムヨットレースと同時に、1998年12月26日新西宮ヨットハーバー-友ガ島水道間でオープン参加のヨットレースが行われる。委細は後日発表される。  
 6) タイムリミット  
 1999年1月5日(火) 15:00 (グアム時間) これ以降にフィニッシュした艇はDNFとする。

3.<摘要規則>  
 3-1 次の規則を適用する。  
 1) 国際セーリング競技規則 1997-2000 (以下 RRS とする) (但し、付則 K の資格規定は、NORC の会員であれば足りる (乗組員全員が NORC または ISAF の会員であること))  
 2) ORC SPECIAL REGULATIONS 1998-1999 カテゴリー 1 (以下 ORC とする)  
 3) NORC 外洋レース規則 1997 (本レースはカテゴリー B を摘要する。)  
 4) JGYR 特別規定  
 5) 実施要項  
 6) 帆走指示書  
 3-2 RRS 及び ORC については英文を正とする。

4.<責任の所在>  
 本レースのレース委員会はレースの公平な成立のみに責任を担う。  
 艇と乗組員の安全の確保は、オーナーの避けられない責任であり、オーナーは所有艇を最良の状態に十分な耐

航性を有するよう保持し、荒天の海にも対抗できる経験十分なクルーを乗り組ませるよう万全を尽さなければならない。オーナーは船体、スパー、リギン、セール及びすべての備品を確実に整備し、また特別規定安全備品が適正に維持格納され、それらの使用方法と置き場所をすべてのクルーに熟知させておかなければならない。  
 各レースにおいて主催、運営、協力に関する団体等はレース参加艇の乗員及び安全について、何ら責任を負うものではない。  
 レース艇がスタートをするか否か、あるいは、レースを続行するか否かはすべて各艇の責任でのみ決定される。オーナー及び艇長は上記の基本規定を乗組員各人に周知徹底しておくこと。  
 また乗組員はその家族にこの基本規定を周知徹底しておくこと。

5.<JGYR 特別規定>  
 参加資格および搭載品について以下のように規定する  
 5-1 LOA 10 m 以上のモノハル艇で NORC の登録艇又は NORC の会員がチャーターしている艇、及びレース委員会が適当と認めた艇。(但し、オーナーおよび艇長は NORC 会員とする。)  
 5-2 ORC カテゴリー 1 を満たし、JGYR 特別規定に合格した艇  
 5-3 次の無線設備を搭載している艇  
 1) イジウム衛星電話。(実行委員会より貸与される)  
 2) 衛星系 406MHZ EPIRB (登録された ID をレース委員会に通知)  
 3) 国際 VHF 無線  
 4) 予備の無線設備 (HF 帯 SSB 船舶無線か HF 帯アマチュア無線、又は予備の衛星電話)  
 5-4 ダブルハンド艇の参加も受け付ける。但しシングルハンド艇は不可。  
 (3人以上乗り組みの場合は、オートヘルム、ウィンドベーンの使用は禁止する)  
 5-5 参加艇の艇長 (スキッパー) の資格  
 オーバーナイトセーリングを含む 100 マイル以上のセーリングを最低 5 回以上、もしくは一回で 500 マイル以上のセーリング経験を持っていること。(自己申告の経歴書提出)  
 5-6 参加艇の乗組員 (クルー) の資格  
 オーバーナイトセーリングを含む通算 100 マイル以上のセーリング経験を持っていること。(スキッパーの認証状提出)  
 5-7 ヨット賠償責任保険に加入していること。  
 [一人死亡時 1 億円以上] を含む搭乗者傷害保険 (乗員分)  
 5-8 予備のメインセール (一枚) を積むことができる。また、

レース委員会は CLASSB の EPIRB を携行すること及び、ORC S.R 4.20 のグラムバッグを備えておくことを推奨する。また ORC S.R 第 5 章の個人装備品はカテゴリー 0 の装備品ではあるが、これも推奨する。

5-9 レース委員会は不適当と認めた艇、及び艇長または乗組員の参加を拒否することができる。

6.<参加申込み>  
 6-1 必要書類  
 レース参加申込書 (参加料振り込み証書のコピーを添付)  
 6-2 エントリーフィー  
 a. 1 艇 150,000 円 乗員一人 20,000 円  
 b. 前夜祭パーティー参加料 一人 5,000 円  
 c. グアムパーティー参加料 一人 5,000 円  
 参加艇はエントリーフィーおよびパーティー参加料 (前夜祭 5,000 円 × 人数) + (グアムパーティ 5,000 円 × 人数) を下記に振り込むこと  
 6-3 締め切り日  
 1998年11月27日(金) 17:00  
 6-4 レイトエントリーは 12月10日(木) の出艇申告時まで受け付ける。  
 レイトエントリーの場合エントリーフィーは 1 艇 200,000 円 乗員一人 20,000 円とする。

11.<出艇申告>  
 a) 日時: 1998年12月10日(木) 17:00 まで  
 b) 申告先: 1999 JGYR 実行委員会事務局 (FAX A4 サイズに統一)  
 FAX 番号 03-3722-8988  
 1. 出艇申告書  
 2. 特別安全検査合格証 (コピー)  
 3. イジウム衛星電話番号、無線機器一覧表  
 4. ヨット賠償責任保険証書 (コピー)  
 5. 艇長自己経歴申告書  
 6. クルー経歴証状  
 7. グアム滞在予定表  
 8. フィニッシュ後の運行予定表 (コピー)  
 9. クルーリスト (英文、邦文各一部) (コピー)  
 10. NORC 会員証、ISAF 会員証のコピー (全員分)

12.<艇長会議>  
 レース参加艇の艇長は必ず参加すること。(代理人の参加は不可)  
 12-1 日時: 1998年12月25日(金) 17:00~18:00  
 12-2 場所: 新西宮ヨットハーバー  
 (日本国旗、米国旗、検疫用 Q 旗を提示すること)

## 事務局報告

社団法人日本外洋帆走協会  
 平成10年9月1日第三種郵便物認可  
 平成10年8月25日(毎月1回25日発行)  
 定価300円

## 海図の備付けの徹底等による乗揚げ海難の防止について

常務理事 加藤正義

最近一部の外国船舶に海図の備付けの不十分なものがあり、海図等を活用した的確な船位確認が十分なされないまま浅瀬等への乗揚げが発生し、流出油による社会的な問題となった事例もあったことから、当協会に対しても事故防止を努めるよう文書(保安第51号の2 平成10年6月30日 (社)日本外洋帆走協会 会長 戸田邦司殿 発信者:海上保安庁警備救難部長 桑原康記 件名 海図の備付けの徹底等による乗揚げ海難の防止について)が来しました。通達中とくに「乗揚げ海難防止のための遵守事項」はわれわれオフショアセーラーにとっても留意すべき事項なので掲載しますから、一読し事故防止に配慮して下さい。

## 《乗揚げ海難防止のための遵守事項》(抄)

次の事項を守って乗揚げ海難の防止に努めましょう。

## (1) 海図等の備付け

航行安全上必要な海図を備え付けること。

また、水路誌、潮汐表等予定された航海に必要な航海用刊行物についても備え付けること。

ただし、船舶安全法上、海図等の備付けを義務付けされていない船舶にあっては、できる限り、海図又はヨット・モーターボート用参考図等の航海用参考図誌を備え付けること。

## (2) 海図の適正使用等

① 海図は航海中常時使用可能な状態にしておくこと。

② 海図は水路通報により最新の状態に維持すること。

③ 航行する海域に応じた縮尺の海図を使用すること。

④ 航海に当たっては、コースラインを予め海図に記入しておくこと。

⑤ 海図にはコースラインの周辺に、予め避險線等障害物を回避するための参考事項を記入しておくこと。

⑥ GPS等の衛星航法装置と併用して海図を使用する場合には、世界測地系と日本測地系の関係を十分に把握した上で使用すること。

## (3) 事前の水路調査

航海計画の策定に当たっては、事前に海図、水路誌等を十分に調査し、航行する海域の状況を把握しておくこと。

## (4) 船位の確認

自船の船位については、付近海域の状況の応じ、適宜確認すること。

## (5) 見張りの励行

① 航海中(錨泊時を含む。以下同じ。)は、見張りを励行すること。

② 夜間及び視界不良時においては、厳重な見張りを継続して行うこと。

③ 自動操舵使用時は、船橋を無人にしたり、居眠りするなど見張りがおろそかになりがちであるから、特に気を付けること。

## (6) 気象・海象情報の把握

風や潮流等の影響により、コースラインどおりに航行できない場合もあることを考慮し、できる限り最新の気象・海象情報の把握に努

めること。

## (7) 錨地の選定及び走錨の監視

① 錨地については、大縮尺の海図等を参照して、できる限り錨きの良い場所を選定するとともに、必要に応じ、双錨泊を行う等、走錨の防止に努めること。

② 走錨を早期に見発するため、錨泊中においても自船の船位を適宜確認すること。

## (8) 海上交通法規の遵守

① 航行海域に適用される海上衝突予防法、海上交通安全法、港則法等の海上交通法規(指導事項を含む。)の内容を十分理解し把握するとともに、これを遵守すること。

② 特に地域性のあるルールについては、航海を予定する海域に適用される事項について、十分に確認しておくこと。

## (9) 居眠り防止

乗揚げ海難の原因の中には、居眠りによるものも見受けられることから、厳正な当直体制の確保はもとより、船内における就業環境等についても十分に配慮すること。

## 舟艇登録シール完成!!

登録艇は貴艇の見やすい場所に  
貼り付けをお願いします

本年度から NORC 船艇登録規程を改正し、舟艇登録料が一律一艇につき 10,000 円になりました。

また、本年 5 月 24 日開催された理事会・代議員会・総会の席上で、今後艇に貼る「舟艇登録シール」(毎年更新)のデザインの投票が行われました。

その結果、同封のシールに決定いたしました(右写真参照)。

8 月末までに 1998 年登録更新料(新規登録料)をご納入いただいた特別会員(舟艇登録者)に郵送いたしました。

貴艇の見やすい箇所(マスト・ブームなど)に貼り付けていただくようお願いいたします。



## 編集後記

## 年会費納入のお願い

本年度の年会費納入のはお済みですか?

会費は会運営の源泉として不可欠です。ご多忙のためお忘れかと存じますが、早めに所属する支部へご納入のほどお願いいたします。

★今号のトピックスは、やはり冒頭の執行部報告です。見出しに踊る「9割を越える賛成」という支持率の高さは、安堵できます。でもひたすら謙虚に「1割近い反対」と受け止める姿勢も大事です。だいたいガラス張りの運営だから少数意見が聞こえてくるのです。大事にしないと損をします。★朗報がひとつ。今号の校正中に郵便局から本誌の第3種郵便物認可の電話がありました。申請から認可まで、およそ半年。やきもきしましたが、これはともかく今号から送料は約半分になるわけで、万々歳。★素人編集者の悩みは沢山ありますが、掲載を求められ持ち込まれる原稿の文字数が、常に負担になっています。全体のバランスのために部分的なカットを判断するのは辛い仕事です。限られた紙面をあらかじめお考え頂ければ非常に幸いです。(H)

★統合問題の課題をクリアする形で、当編集委員会とJYAの編集委員会は、もう数回交換会をもっています。日頃同じ海面で顔を合わせている仲なのに、こと組織の関係になると疎遠でした。それが蒸し暑い夕方、ビール片手に話を交わすと、様々なメンバーも交じって、お互いに相手の組織を心配するという案配になります。これからのために、この種の交流がもっとさかんになればと思っています。(N)